

平澤 憲祐(東京医科歯科大学医学部附属病院循環器内科)

【留学先】 Leiden University Medical Center

【テーマ】 3次元マルチモダリティイメージングを用いた機能的三尖弁逆流における三尖弁リモデリングの解析

【経過報告】

2019年4月末よりオランダ南ホラント州ライデンにある Leiden University Medical Center にリサーチフェローとして留学し、既に4ヶ月目になります。オランダの中でもライデンは安全な街であり大変暮らしやすく、徐々に文化や気候にも慣れてきました。

留学先では Imaging 部門の Victoria Delgado, Jeroen J Bax と行った著名な先生方のもとで弁膜症に関する imaging について様々な研究プロジェクトに参加させていただいております。同僚のリサーチフェローはブラジル、オーストラリア、ロシア、グルジアと国際色豊かな面々であり、日々お互いにわからない点などを教えあいながら研鑽を積んでいます。また、オランダ人フェローも気さくな人達ばかりであり、非常に雰囲気の良い職場です。

私のメインテーマは三尖弁、右心系のイメージングですが、同時に僧帽弁や様々な SHD デバイスを絡めた研究も行っており、充実した毎日を送っております。

ご支援いただきました貴学会と関係者の皆様に心より感謝いたします。皆様方のご期待に添えるよう精進していきたく思います。

【帰国報告書】

2019年4月末よりオランダ南ホラント州ライデンにある Leiden University Medical Center (LUMC) にリサーチフェローとして留学しておりました平澤憲祐です。2021年9月に2年半の留学生生活を終え、帰国いたしました。留学開始当初は文化や気候の違いなどを感じ、研究に関しても手探りでしたが、上司や同僚の手厚いヘルプを受けながら2年が過ぎる頃には第二の故郷と呼べるほどに環境に順応することができました。主任教授である Jeroen J Bax 教授、Imaging チームのリーダーである Victoria Delgado 氏の指導のもと、弁膜症におけるエコーとCTを組み合わせた Multimodality Imaging についての研究に参加させていただきました。当初は三尖弁の解析に重点を置いていましたが、僧帽弁、左心房、右室など多岐にわたる部位についての研究もさせていただき、現時点で6本の論文を筆頭著者として発表することができました。

LUMC での研究で最も刺激を受けた部分は論文を書くことについてのグループ全体としてのモチベーションの高さでした。論文のテーマは上司から与えられることもありますが、自身で考えたアイデアを自由に発表することもできます。毎週のように行われるリサーチカンファレ

ンスでは厳しい指摘を受けることもあり、大変勉強になりました。当初苦手意識のあった英語での議論も回数を重ねるごとにカンファレンスの勢いにつられて楽しい時間となりました。英語力はそれほど上がっていないと思いますが、議論するだけの度胸がついたことは自分にとって大きな収穫でした。

また、国際的な同僚たちからも多くの刺激を受けました。留学していた 2 年間で出会った同僚たちはオランダのみならずイタリア、イスラエル、オーストラリア、ジョージア、シンガポール、ブラジル、ベルギー、ポルトガル、モンゴル、ロシア、南アフリカ、中国など世界中から集まっておりそれぞれが多様なバックグラウンドを持っていました。医学だけでなく、宗教や文化なども含め、多くのことを学ばせてもらいました。

留学期間中にはもちろん大変なこともありました。特に世界中でパンデミックを引き起こした新型コロナウイルスの蔓延はオランダでもロックダウンなどの措置が取られました。幸いリモートワークの環境を早々に整えてもらえたため研究には大きな支障は出ませんでした。学会が軒並みオンラインになったことは大変残念でした。

しかし留学を通してみれば良い経験をさせていただいた 2 年半であったと感じています。今後はこの貴重な経験を生かし、精進していきたいと考えています。留学の機会を与えてくださった東京医科歯科大学循環器内科医局の先生方、ご支援を賜りました心エコー図学会、留学のサポートをいただきました聖マリアンナ医科大学の出雲先生、明石教授、その他関係者の皆様に心より感謝申し上げます。